

講義コード	11C0122100	授業形態	講義	事前登録の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	アジア経済史1／特殊講義〈アジア経済史A〉					島田 竜登		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	おもに16世紀から19世紀半ばにかけてのアジア経済史を概説する。特定の地域や一国の経済史分析に偏ることなく、できる限りまんべんなくアジア各地の経済を長期的視野の下に概観することにつとめたい。また、日本との関係や世界経済との関連についても言及する。								
到達目標	16世紀から19世紀半ばという長期的な視点で、アジア全般にわたる広域的観点から、現在のアジア経済を見る目を養い、多様なアジア経済の特質を歴史的に理解し、説明できるようになることを目標とする。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外学修としては復習を中心に進めること。各回の授業で扱ったトピックについて、授業で紹介した参考文献を読むなど、図書館及びインターネット等で復習を行うこととし、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 問題の所在 【第2回】 アジア経済史の方法①：さまざまな発展段階論 【第3回】 アジア経済史の方法②：史的唯物論 【第4回】 アジア経済史の方法③：ガーシェンクロン・モデルとロストウ・モデル 【第5回】 アジア経済史の方法④：雁行形態論 【第6回】 15世紀までのアジア①：東アジア 【第7回】 15世紀までのアジア②：東南アジアと西南アジア 【第8回】 「大航海時代」①：銀と世界経済 【第9回】 「大航海時代」②：オランダ東インド会社の貿易 【第10回】 「大航海時代」③：近世植民都市とユーラシアン 【第11回】 近世的経済秩序①：東アジア 【第12回】 近世的経済秩序②：東南アジア 【第13回】 近世的経済秩序③：西南アジア 【第14回】 近世アジア経済と日本 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	期末試験（85％）および授業への取り組み姿勢（15％）で評価する。								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書	『アジア経済史研究入門』水島司、加藤博、久保亨、島田竜登（名古屋大学出版会）2015								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
その他									